

時代とハートを動かす

SEIKO

ただの数字 じゃない。

TIME IS WHAT I AM.

完走直後、ランナー自身が書き込んだタイムとメッセージを持つ姿を速報広告として展開。



地下鉄の車両を埋め尽くした中張り広告。

マラソンランナーが刻んだタイム。それは単なる記録ではありません。完走した人だけが得られる勲章であり、一人ひとりの熱い思いが詰まった宝物です。応援してくれた人のこと、途中でくじけそうになったこと、完走することで見えた新しい世界。タイムにはさまざまなドラマが凝縮されています。セイコーはオフィシャルタイマーとして大会を支えるとともに、「セイコー市民ランナー応援プロジェクト」を通じて、スポーツに本気で向き合う人を応援しています。



レギュラー番組となった「Sound Inn "S"」。第4回のゲストはシンガー・ソングライターの平原綾香さん。

時や世代を超えて人々に共感を与える力。心に明かりをともし、人々を勇気づける力。音楽にはそんな不思議な力があります。セイコーは、東日本大震災の直後から、音楽を通じた復興支援活動に取り組み、人々とのきずなを深めてきました。そして2014年、時や世代を超えて愛される名曲を現代のアーティストがお届けする一夜限りのステージイベント「Sound Inn "S"」を開催。2015年からは、レギュラー番組としてお届けしています。音楽の力を信じて、わたしたちは人々に豊かな時間を提供していきます。

人々に共感を与え、 勇気づける 音楽の力



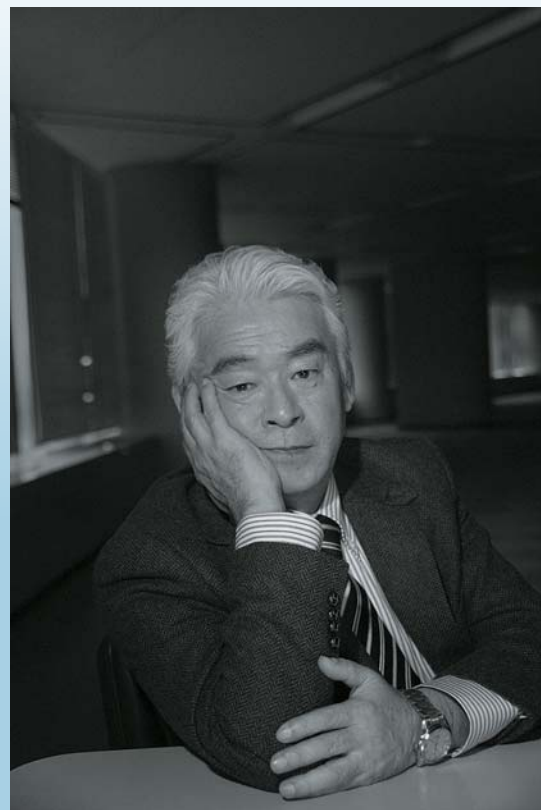
「サウンド・イン "S"」は、実力派のミュージシャンたちが洋楽の魅力や最新の音楽文化を斬新な趣向で伝える音楽番組として、1974年4月から1981年3月まで放送。セイコーはかつて提供していたこの番組をリニューアルし、レギュラー番組（BS-TBS）として復活させた。

グランドセイコーの世界を、 写真家の視点で切り取る。

2015年、グランドセイコーは発売55周年を迎えました。記念プロジェクト「Grand Seiko Through Three Photographers' Eyes」では、腕時計の原点である正確さと見やすさ、そして美しさを追求し続けてきたグランドセイコーの世界を、世界的に評価の高い3人の写真家がそれぞれの視点で切り取りました。グランドセイコーならではの日本の美意識を再発見するこのプロジェクトを通じて、セイコーは、お客さまとの間に、心躍る新たな関係が生まれることを願っています。



パーゼルワールド2015に出展したブースの中央に、インタラクティブフォトブックを設置。大きな本のページをめくるたびに、写真が空中に飛び出す。



- | | | |
|---|---|--|
| A | B | A: 「Portraits (ブランドに関わる人びとの想い)」
photo by 野村 佐紀子 |
| | | B: 「Parts (精緻なものづくり)」
photo by 田原 桂一 |
| | C | C: 「Time (時の持つ物語性)」
photo by 濱田 祐史 |



子どもたちの笑顔があふれる デジタルサイネージ の新たな拡がり

幼稚園や保育園は、子どもたちが社会性を身につけ、発想力や感受性を育む重要な場です。そこでは、子どもたちが登園するのが楽しくなるような仕掛けが求められます。同時に、出席確認や給食準備数、降園時間の管理など、さまざまな事務作業を効率的に行うためのシステムも必要とされています。セイコーは、官公庁や企業で培った実績をもとに、子ども施設向けデジタルサイネージを開発。充実したコンテンツときめ細かいサポートで施設運営を支えています。



次々にあらわれるシャボン玉を割っていくゲームが一番の人気。

お客様の心に響くブランド、SEIKO。

服部金太郎は、「常に時代の一步先を行く」という志をもって創業しました。その志は、弛まぬ技術革新と品質向上への挑戦を支え、創業以来134年を経ても変わることなくグループの一人ひとりに受け継がれています。2014年、セイコーは、お客様の心に響く満足や感動をともに分かち合いたいと願い、「時代とハートを動かすSEIKO」というグループスローガンを掲げました。わたしたちは、市場変化をとらえ技術革新を実現するチャレンジ精神と、ワクワク・ドキドキするような躍動感で次代を切り拓いてまいります。また、若い世代や女性のセイコーファン獲得に向け、スポーツと音楽を中心にしたブランディング活動を展開いたします。世界陸上をはじめとするスポーツ大会の公式計時や、東日本被災地支援コンサートや音楽番組の提供など、躍動するセイコーのブランドイメージを訴求してまいります。わたしたちは、人々の「時」に寄り添い、身近で親しまれる信頼の存在になりたいと願っています。

セイコーホールディングス株式会社
代表取締役会長兼グループCEO 服部 真二

グループの強みを最大限に生かし、事業収益の最大化に邁進してまいります。

当期(2016年3月期)は、第5次中期経営計画の最終年度(3年目)にあたります。おかげさまで第二年度までは、順調に目標を達成することができました。特に、事業収益の大きな柱であるウオッチ事業では、高価格帯の「グランドセイコー」、世界初のGPSソーラーウオッチ「セイコー アストロン」などが好調に推移し、計画を大きく上回ることができました。また、電子デバイス事業も選択と集中の事業構造改革の成果が出ており、半導体を中心に着実に実績をあげています。グループ第3の柱として期待されるシステムソリューション事業では、グループ内事業の統合によって技術やノウハウを融合し、新たな製品・サービスの創出に努めています。今後も環境変化をしっかりと見据え、グループの強みを最大限に生かし、中期経営計画の基本方針である「事業収益の最大化」に向けて邁進し、目標を達成していききたいと思います。

セイコーホールディングス株式会社
代表取締役社長 中村 吉伸



代表取締役会長兼グループCEO
服部 真二

代表取締役社長
中村 吉伸

Contents

フォトストーリー 1
 グループCEO・社長メッセージ 5
 わたしたちの身の周りで活躍するセイコーの製品・サービス 7
 セイコー事業の系譜 8
 セイコーホールディングスグループの概要 13
 事業紹介/ウオッチ事業 15
 電子デバイス事業 17
 システムソリューション事業 19
 その他 21

セイコーホールディングスグループのCSR 23
 コーポレート・ガバナンス 24
 お客さまとともに 26
 お取引先とともに 27
 株主・投資家とともに 28
 社員とともに 29
 地域・社会とともに 31
 環境保全の課題解決に向けて 33

グループスローガン

時代とハートを動かす
SEIKO

セイコーは、創業以来「常に時代の一步先を行く」という経営姿勢を貫き、革新を続けてきました。この創業からの思いと、「お客さまの感性に訴えたい」という新たな思いを込め、わかりやすく表現した企業スローガンを制定しました。時代を牽引してきた技術力と感性で、これからも未来を創造していくというセイコーの熱い意志と躍動感を伝えていきます。

わたしたちの身の周りで活躍する セイコーの製品・サービス

街で

眼鏡レンズ、フレーム

和光時計塔

スマートデバイス用IC、電池、水晶振動子

放送局用標準時計装置

小売

金融機関向けセキュリティ用センサ

車載用IC、精密加工部品

空港で

世界時計

空港タワークロック

GPSソーラーウォッチ

10:08
12:08
17:08
18:08
18:08
23:08
22:08

お店で

マルチ電子マネー端末・各種決済サービス

オーダーエントリーシステム

小型サーマルプリンタ

競技場で

スポーツ計時測機器

スポーツウォッチ

カメラ用シャッター

オフィスで

エネルギー監視・制御システム

時刻認証・同期システム

デジタルサイネージ

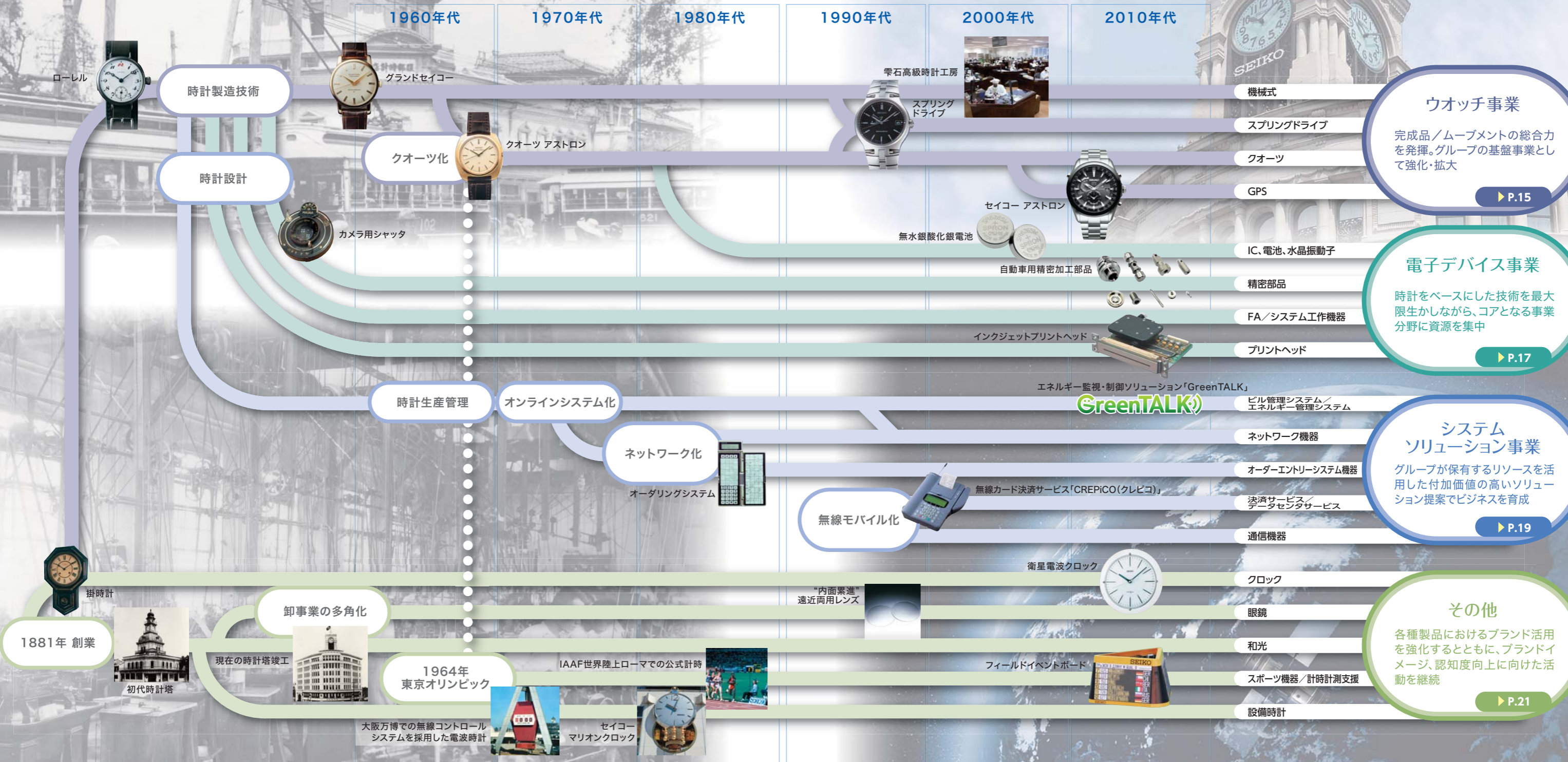
家で

目ざまし時計

衛星電波クロック

セイコー事業の系譜

創業者 服部金太郎が説いた「常に時代の一步先を行く」という精神。それを受け継ぎ、セイコーは、すべての人が正確な時間を手にするための時計を追求するとともに、エレクトロニクスやデジタルの最新技術を駆使することによって、時計以外の分野においても革新的な製品・サービスを世に送り出してきました。130余年にわたって時代とハートを動かし、現在の事業の礎となった、セイコー事業の系譜をご紹介します。



ウオッチ事業

完成品/ムーブメントの総合力を発揮。グループの基盤事業として強化・拡大

▶ P.15

電子デバイス事業

時計をベースにした技術を最大限生かしながら、コアとなる事業分野に資源を集中

▶ P.17

システムソリューション事業

グループが保有するリソースを活用した付加価値の高いソリューション提案でビジネスを育成

▶ P.19

その他

各種製品におけるブランド活用を強化するとともに、ブランドイメージ、認知度向上に向けた活動を継続

▶ P.21

時の技が育んできた、百年の結晶



1913年、国産初の腕時計「ローレル」で第一歩を踏み出して以来、ムーブメントから自社で一貫生産するマニュファクチュール（工場）の強みを生かし、鍛え上げた匠の技や先進技術によって生まれた製品は、いま世界中で高く評価されています。「雫石高級時計工房」で製造・組み立てられる「グランドセイコー」の高級機械式腕時計は、他に類を見ない精度・品質・美しさで賞賛されています。また、1969年に世に送り出した世界初のクォーツ式腕時計に、先進技術を組み合わせ、2012年に発売した世界初のGPSソーラーウオッチ「セイコー アストロン」は、グローバルマーケットで世界標準として認識されています。



1913年
国産初の腕時計
「ローレル」

1969年
世界初のクォーツ式腕時計
「クォーツアストロン」

1999年
世界初、世界唯一の駆動機構
「スプリングドライブ」

2012年
世界初のGPSソーラーウオッチ
「セイコーアストロン」

ネットワーク社会の到来へ向け、もてる技術を集約

セイコーは、時計の生産管理から独自のオンラインシステムを生み出し、その技術を基盤として80年代より、建物内の稼働状況の「見える化」を実現する総合ビル管理システムや、無線ネットワークを活用した世界初の外食産業用オーダーリングシステムなど、ユニークな製品を次々と製品化していきます。なかでも99年にサービスを開始した日本初の無線によるクレジットカード決済サービス「CREPiCO（クレピコ）」は、タクシーなどで普及が進み、デビットカードや交通系電子マネーなどにも対応した、現在のモバイル決済システムの先駆けとなりました。



1980年
総合ビル管理システム
「BUILTALK」を発売

1985年
世界初の外食産業用オーダーリングシステムを発売

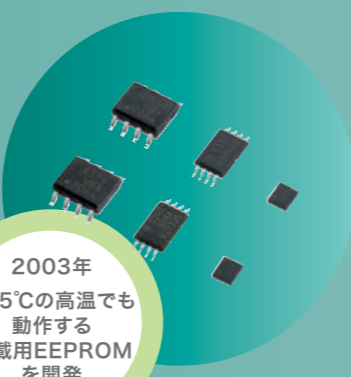
1999年
日本初の無線カード決済サービス「CREPiCO（クレピコ）」を開始

2007年
タクシー向けマルチ電子決済サービスを開始

時計づくりから生まれた、社会を支える電子デバイス



半導体のなかでも消費電力が低く、機器の小型化、高機能化に貢献するCMOS ICは、クォーツウオッチを開発する過程で製品化されました。1960年代末、セイコーはアメリカのベンチャー企業と共同でウオッチ用CMOS ICの開発に成功、世界で初めてCMOS ICを搭載したクォーツウオッチを世に送り出したのです。80年代に入ると、電源用ICやセンサ、メモリなどにラインアップを広げ、現在ではリチウムイオン二次電池保護ICで世界トップクラスのシェア、車載用EEPROMで国内トップシェアを誇るなど、さまざまな分野で活躍しています。



1892年
時計製造工場
精工舎設立

1937年
ウオッチ製造部門として、第二精工舎を設立

1970年
クォーツ化技術による、多角化分野に進出

2003年
125℃の高温でも動作する車載用EEPROMを開発

スポーツ競技を瞬時に、確実に、正確にとらえる

1964年の東京オリンピック以来、セイコーは、IAAF世界陸上をはじめとした数々の大会でオフィシャルタイマーを務めています。2010年、走幅跳と三段跳の正式計測システムとして導入された「VDM（ビデオ距離計測装置）」は、フィールドの外に設置した2台のカメラで跳躍をとらえ、計測員がモニターに表示された画像の着地点にカーソルを合わせるだけで走幅跳と三段跳の計測が可能です。このように速く正確で、機材や係員を観戦の妨げにしないシステムに加え、競技の結果や選手の情報をわかりやすく表示する機材の開発も進めています。



1964年
東京オリンピックで公式計時を務める（以後、5大会で公式計時を担当）

1987年
IAAF世界陸上ローマで公式計時を務める（以後、継続して担当）

2007年
東京マラソンで公式計時を務める（以後、継続して担当）

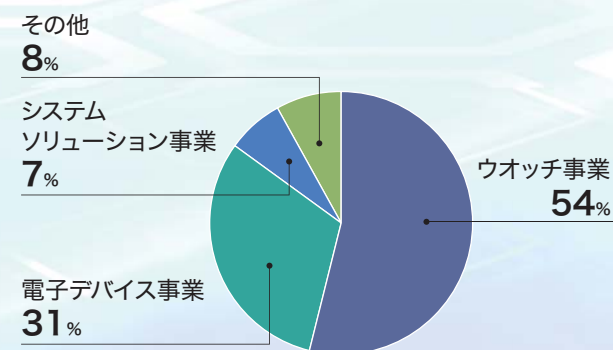
2010年
世界室内陸上ドーハでビデオ距離計測装置（VDM）を導入

セイコーホールディングスグループの概要

世界各地に製造・販売拠点をおき、各国に広がる代理店ネットワークを通じてグローバルに事業を展開しています。

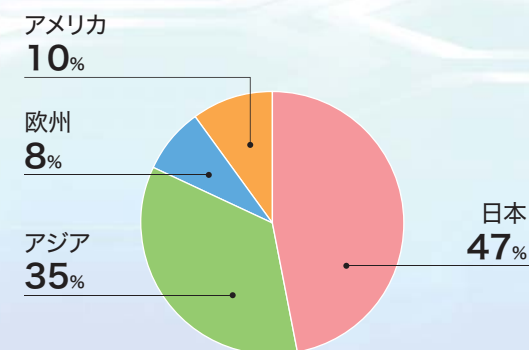


事業別売上高構成比 (2015年3月期)



注) 数値は連結ベースです。

地域別売上高構成比 (2015年3月期)



注) 数値は連結ベースです。

セイコーホールディングス株式会社 企業概要

創業	1881年(明治14年)
資本金	100億円
従業員数	117名 (2015年3月31日現在) 13,565名 (2015年3月31日現在連結)
売上高	99億円 (2015年3月期) 2,934億円 (2015年3月期連結)
事業の内容	ウォッチ、電子デバイス、システムソリューション、クロック、高級宝飾・服飾・雑貨、設備時計などを扱う事業会社の連結経営管理
本社所在地	〒105-8505 東京都港区虎ノ門2丁目8-10 TEL:03-6739-3111(代表)

ウオッチをはじめ、電子デバイス、システムソリューションの3事業を軸に、さまざまな事業を展開しています。グループ各社が連携しながら、さらなる飛躍を目指します。

事業紹介

ウオッチ事業



主な事業会社

セイコーウオッチ株式会社

セイコーインスツル株式会社

腕時計に新たな革命をもたらす世界初のGPSソーラーウオッチ

2012年、世界のタイムゾーンに対応し、簡単な操作で、地球上のさまざまな場所で正確な時を知ることができる、世界初のGPSソーラーウオッチ「セイコー アストロン」を発売しました。かつて、セイコーは世界初のクォーツウオッチ「クォーツ アストロン」で腕時計の世界に革命をもたらしました。これに続く第二の革命と位置づける「セイコー アストロン」は、発売以来、世界中から非常に高い評価を得ており、既存の腕時計の概念を覆す新たな腕時計のスタンダードとなることを目指しています。



世界初GPSソーラーウオッチ
セイコー アストロン
(2012年発売)

匠の技と先進技術で生み出される高級機械式腕時計

2004年、高級機械式腕時計の需要の高まりに応え、岩手県に「雫石高級時計工房」を設立しました。高級機械式腕時計を専門に、部品製造から完成品の組み立てまでを一貫して行う日本有数の工房です。この工房を核として、高精度を支えるミクロン単位でのぜんまい調整、厚み1.98mmの極薄ムーブメントの組み立て、繊細で優美な彫金などの匠の技と、新合金や最先端金属成型技術による部品製造などの先進技術の融合により、「グランドセイコー」と「クレドール」ブランドなどの最高品質の機械式腕時計をつくっています。



高級機械式腕時計
ムーブメント

55th
ANNIVERSARY
Grand Seiko

グランドセイコー

お客様のニーズに応える幅広いブランドマーケティング

お客様のニーズに応えるため、国内外で幅広いブランドマーケティングを行っています。その中心となる商品はいずれもロングセラーです。実用時計の最高峰「グランドセイコー」は今年55周年を迎え、全世界でその地歩を固めています。日本初として誕生してから50年を経て、セイコーダイバーズの人気はますます高く、スポーツウオッチ「プロスペックス」を牽引しています。自分らしく生きる女性のための「ルキア」も20年目を迎えました。さらに、GPSソーラーウオッチ「アストロン」、国産最高級ブランド「クレドール」など個性豊かなプロダクトブランドでさまざまなライフスタイルに合った腕時計を提供しています。

成長するファッション・スポーツウオッチ市場に向けては、2013年に同分野に特化した事業会社を設立し、シェア拡大を図っています。



プロスペックス

SEIKO DIVER'S WATCH
50th
ANNIVERSARY

20th
ANNIVERSARY
LUKIA

セイコー ルキア

真のマニファクチュールとして世界へさらに飛躍する

セイコーは、最先端技術と匠の技を駆使してムーブメントを自社で開発・設計し、基幹部品の製造から、組み立て、調整、品質検査まで、全て自社で一貫して行う世界でも数少ない「マニファクチュール」です。独自の競争力により生み出した革新的な製品で、時計産業を牽引してきました。

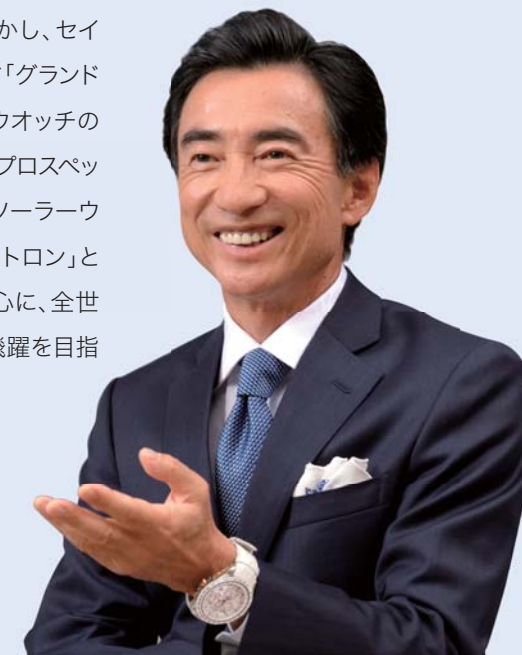
こうした長年にわたる実績が評価され、2014年には歴史に残る素晴らしい賞をいただくことができました。日本国内では、「クォーツ アストロン35SQ」が公益財団法人 発明協会の「戦後日本のイノベーション100選」に選定され、さらに、国産腕時計3点が一般社団法人 日本機械学会より「機械遺産」に認定されたのです。海外でも、ジュネーブ時計グランプリにおいて、「グランドセイコー メカニカルハイビート36000GMT限定モデル」が「プティット・エギューユ」部門賞を受賞しました。時計王国スイスの権威ある賞を欧州以外のメーカーが機械式時計の分野で受賞することは、日本の時計メーカーとして初の快挙であり、日本の時計づくりの歴史においてたいへん名誉なことでした。

また、2014年にアメリカ初、2015年にドイツ初、日本初のセイコーブティックをそれぞれ、ニューヨーク、フランクフルト、銀座にオープンしました。今後も全世界でブティック展開を積極的に進めていく予定です。

これからも、マニファクチュールの強みを生かし、セイコーの最高級ブランド「グランドセイコー」、スポーツウオッチの頂点に立つ「セイコー プロスペックス」、世界初のGPSソーラーウオッチ「セイコー アストロン」という強力な商品を中心に、全世界に向けてさらなる飛躍を目指します。

セイコーウオッチ株式会社
代表取締役社長 兼
CEO最高経営責任者

服部 真二



セイコーではたらく



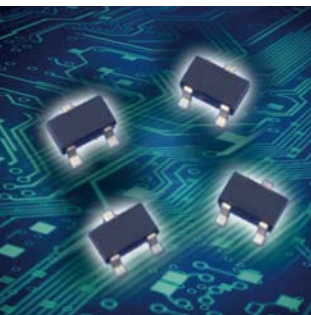
セイコーウオッチ株式会社
開発営業部

三浦 良平

いかにセイコーの良さを多くの方に伝えられるか。営業担当として日々このテーマに取り組んでいます。「時計とは?」「お客様が求めているものは?」といった本質をシンプルに考え、商品バイヤーとの打ち合わせだけでなく、店舗で販売動向などの情報を収集することで、取引先の方々に商品の良さを伝え、さらにその先のお客様に商品の魅力が十分伝わるような提案に結びつけています。提案した内容が狙い通りヒットし、時計に興味のなかったお客様にもアピールができたときは、大きなやりがいを感じます。

社名・部署名は2015年9月現在

電子デバイス事業



主な事業会社

セイコーインスツル株式会社

セイコープレジジョン株式会社

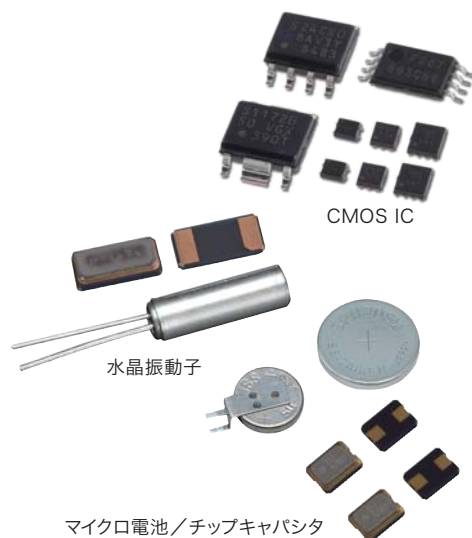
セイコーNPC株式会社

精密加工技術、小型・省電力技術などで、高度化する社会と産業をサポートします。

電子部品

—小型化、低消費電力化、高機能化を実現

クオーツウォッチ開発から生まれた電子部品は、スマートフォンやデジタル家電、自動車、産業用機器などの分野で幅広く活用されています。CMOS ICや水晶振動子は小型、低電圧駆動、低消費電力、高精度で機器の小型化、高機能化、駆動時間の長時間化に貢献。なかでも、CMOS ICは、厳しい環境下での安定動作が求められる車載用にも採用され、その実力が高く評価されています。また、水晶発振器用ICは世界シェアナンバーワンを誇ります。時計用部品の開発・製造の過程で培った電池技術および磁石・高機能金属製品群は、現在では電子機器の小型化・高機能化に貢献しています。

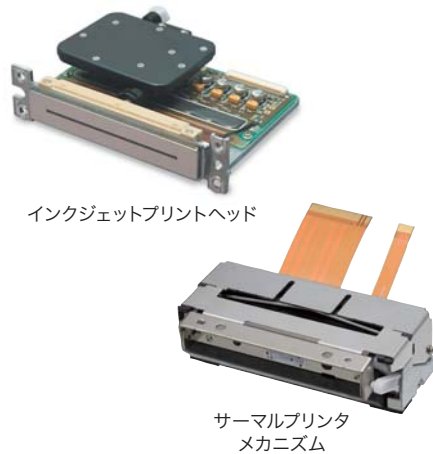


水晶振動子
マイクロ電池/チップキャパシタ

プリンタ

—確かな技術力で高まる安心感、極まる生産性

インクジェットプリントヘッドは、インクの微小な液滴を対象物に直接吹き付けて印刷を行う産業用インクジェットプリンタの基幹部品で、広告看板産業をはじめ、建材産業やテキスタイル産業の生産性と、品質の向上に大きく貢献しています。また、感熱紙に熱を加えて印字するサーマルプリンタメカニズムは、小型で静音性が高く、メンテナンスが容易という特長を生かして、POSレジや決済端末、医療・計測機器など、私たちに近づくところでも幅広く利用されています。



インクジェットプリントヘッド

サーマルプリンタメカニズム

メカトロ

—社会を支える精密加工技術

時計製造を通じて育まれた精密加工技術を生かし、ハードディスクドライブ用部品や医療用機器、カメラ、モーター、携帯電話など、さまざまな分野で使用される精密切削部品を提供しています。また、ABSブレーキ部品やエンジン・トランスミッション部品などの自動車用部品や、デジタルカメラ用シャッタの製造も手がけています。さらに、金属加工の現場で培われたノウハウを凝縮した工作機械は、自動車部品メーカーなどで多数採用され、高精度のモノづくりにおいて、その実力を発揮しています。



自動車用精密加工部品

デジタルカメラ用シャッタ

内面研削盤

「匠・小・省」をベースに グローバルナンバーワンを目指す

当社は、腕時計製造で培ってきた高い品質・技術レベルにこだわる「匠」の精神、小さくすることで新たな価値を創造する「小」の技術、低消費電力などによって資源の効率的な活用を図る「省」の技術をベースに、事業を展開してきました。近年、スマートフォンやデジタル家電の小型化や多機能化、ウェアラブル化が急速に進んでいます。また、資源・エネルギー問題への対応などもあり、「匠・小・省」に求められるニーズはますます高まっています。

技術革新のスピードが速い電子デバイス事業では、5年先、10年先の市場動向を見極めて、常にお客さまにとって価値ある製品をお届けしていかなければなりません。そのため、(株)日本政策投資銀行との共同出資による半導体新会社の設立や、精密メカトロ製品の強化・拡充など、大きな成長の見込めるコアビジネスへの経営資源の集中を進めています。また、同時に、安定的な収益構造の確立にも努めています。

こうした経営戦略を社員が理解し、十分に能力を発揮してもらうため、お互いに胸襟を開いてフェイス・トゥ・フェイスで話し合う機会を多く設けています。

今後は、社員一人ひとりがチャレンジ精神をもって、「匠・小・省」をベースとした日本初、世界初となる製品の開発に取り組み、SEIKOのブランド力を生かすことでさらなるシェア拡大を図り、各製品でグローバルナンバーワンとなることを目指してまいります。

セイコーインスツル株式会社
代表取締役社長

村上 斉



セイコーインスツル株式会社
半導体営業統括部長

大住 敏晃

自動車部品サプライヤーに対する車載用ICの営業を担当しています。自動車業界では4~5年のスパンで新規モデルが発表されるため、この情報をいち早く入手し、設計段階から営業活動を進めていくことが重要です。海外出張の際は、製品提案を行う傍ら現地の情報収集にも努め、新たな商談へつなげるよう努めています。セイコーの歴史、ブランド、技術的対応力、レスポンスの早さなど、半導体売るだけでなく、製品以外の見えない部分も含めてトータルにお客さまをサポートし、長期的なパートナーとして貢献できるようにしたいと考えています。

社名・部署名は2015年9月現在

システムソリューション事業



主な事業会社

セイコーソリューションズ株式会社

ハード、アプリケーション、データセンターの複合サービスで、付加価値の高いソリューションを提供します。

システムインテグレーション

—顧客・市場に密着した対応で、ICTソリューションをトータルに提供

総合ビル管理システムをはじめ、省エネを実現するエネルギー管理システム、外食店舗オペレーションをサポートするレストランオーダーリングシステム、デジタル情報に電子署名とタイムスタンプを付与するデジタルエビデンスソリューションなどを提供。お客さまに密着し、市場のニーズを深掘りしたソリューションを提案します。



決済ソリューション

—お客さま視点で決済ニーズに応え、端末からサービスまで一貫してサポート

お客さまにとって最適な決済ソリューションをトータルに提供しています。非接触IC用端末の開発から、企業間の電子商取引を支える決済パッケージソフトの販売、タクシーや訪問販売における無線カード決済サービス「CREPiCO（クレピコ）」を提供。さらに情報処理センターの運用まで一貫してサポートします。



ネットワークソリューション

—時刻同期やレガシー通信など、つなぐ技術を極めた製品で信頼と安心を生む

ネットワーク上のマシンに標準時刻を高精度に配信する「タイムサーバ」、既存のレガシー通信に対応しシームレスな情報の一元化を図るマルチプロトコルコンバータ「USTシリーズ」、イーサネット上で確実に通信するための各種ネットワーク機器など、信頼性と安定性の高い自社開発製品を提供。情報と情報を快適につなぎ、新たな価値を提案します。



モバイルソリューション

—M2M市場をリードするモバイルソリューションベンダーを目指す

長年培ってきた無線技術と小型化技術を駆使し、M2M市場における先駆的な製品を提供しています。

国内初のLTE3バンドに対応したM2M通信モジュールや通信モジュールを組み込んだIoT機器への応用、運用サービスまで拡大。さまざまな業種の課題解決を図る、モバイルソリューションベンダーを目指します。



常に新しいモノをつくり続けていく企業でありたい

当社は、2014年7月にセイコーインスツル(株)のシステムアプリケーション事業を統合し新体制となりました。ウオッチ、電子デバイスに次ぐ第3の柱としてシステムソリューション事業の拡大を図ります。

この統合により、さまざまな人や機器をインターネットに接続するIoT(Internet of Things)に関する技術のほぼすべてをもつことになりました。このことを強みとして、さらなる事業の成長を目指します。

これらの強みを生かすためには技術のシナジーが欠かせません。当社の4つの基盤事業を横断する新しい仕組みを構築し連携を深めることで、ダイナミックに、かつスピード感をもって新しいソリューションを創出し、お客さまへのサービスの深化と拡大を実現します。

また、海外での事業展開を視野に入れ、まずはASEANにおける基盤づくりを目的に、2015年1月、タイに販売会社を設立し営業を開始しました。

当社の成長を支えるのは、お客さまのニーズを敏感に感じ取る感受性と、自分たちが持っているシーズを組み合わせる新しいビジネスをつくり出す創造力、そして社員一人ひとりの行動力です。こうした能力を併せもつ人材を育成し、サポートしていくことで、お客さまの考えをより深く理解し、カタチにしていきながら、常に一歩先のソリューションを提供し続けていく、そんな企業でありたいと考えています。

セイコーソリューションズ株式会社 代表取締役社長

山本 隆章



セイコーソリューションズ株式会社 決済ソリューション統括部

伊地知 由貴

カード決済に関するパッケージ製品の開発を行っています。買い物でクレジットカードを利用する際に、カード情報や購入金額などの情報をお店から決済センターに伝送するための製品です。担当した製品によって買い物がスムーズに行われ、利用者や店舗の利便性の向上に貢献できることが開発の励みになっています。技術的な知識だけでなく、クレジット決済の業界知識やセキュリティ関連の専門知識についても勉強を重ね、3年後には画期的な機能を持った新しい製品を設計できるだけの力をつけたいと考えています。

社名・部署名は2015年9月現在

その他



主な事業会社

セイコークロック株式会社

株式会社 和光

セイコータイムシステム株式会社

セイコーオプティカルプロダクツ株式会社

クロック、小売、システムクロック／スポーツ機器、眼鏡など、幅広い事業領域で社会に貢献しています。

■ クロック

掛時計の製造開始より120年、企画・製造からアフターサービスまでを行うクロックトータルカンパニーとして、高い品質とモノづくりの技、先進技術の融合により、幅広い商品ラインアップを誇ります。

衛星電波クロック「セイコー スペースリンク」

2014年、GPS衛星からの時刻情報を受信し自動的に時刻を修正する、世界初の家庭用衛星電波クロックを発売しました。従来の電波時計に比べ、屋内でも受信可能な範囲が大幅に拡がり、受信スピードも短縮されました。GPS衛星の信号を受信できるのであれば、国や地域にかかわらず正確な時刻表示を実現する、まさに進化した電波時計といえます。

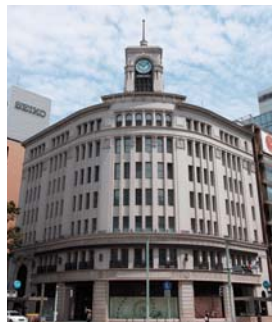


世界初の家庭用衛星電波クロック「セイコー スペースリンク」

■ 小売

おもてなしの心でお客さまに接する銀座の高級専門店

銀座を代表する高級専門店・和光では、時計をはじめ、宝飾品、紳士・婦人用品、室内装飾品、食品など、お客さまの声を取り入れて独自に開発した、あるいは国内外から厳しい目で選び抜いた、高い品質を誇る商品を幅広く取り揃え、質の高いサービスを提供しています。また、銀座の街を見守る和光本館は2015年に竣工83年を迎え、この間、銀座のシンボルとして多くの人々に愛されてきました。これからも、長い歴史と伝統のなかで培ってきた上質へのこだわりとおもてなしの精神で、お客さまとの信頼関係を大切にしていきます。

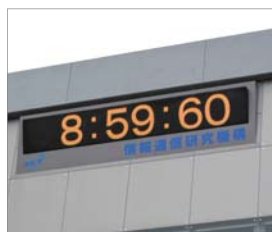


和光本館

■ システムクロック／スポーツ機器

公共の空間やスポーツシーンで活躍

学校・病院などの公共施設で使われる設備時計、街を彩るからくり時計、放送局用時計などの専門的な時計から、10,000分の1秒まで計測可能なスポーツ計時計測機器、競技データ処理システムおよび大型表示盤や野球場スコアボードなど、システムクロックやスポーツ機器の企画・開発から製造・販売、アフターサービスにいたるまで総合的にを行っています。また、国際大会などで培われた豊富な経験と、高度な技術力をベースに、各種スポーツ大会の計時支援活動も積極的に展開しています。



情報通信研究機構のLED表示システム 2015年7月1日「うるう秒」を表示

■ 眼鏡

90年以上の歴史を誇る眼鏡事業。レンズとフレーム双方を扱う世界に数少ない会社として、最高、最適なパフォーマンスを実現するメガネ「EYEWEAR THAT PERFORMS」を提供しています。

幅広いラインアップが揃うセイコーの高付加価値商品

1997年に世界初の遠近両用テ일러メイドレンズを発売して以来、セイコーは一人ひとりの「お客さま仕様」を目指したレンズ開発を推進。フレームは常に、品質、デザイン、掛け心地を追求。掛けた方のスタイリッシュな表情を演出する豊富なラインアップが揃っています。



「EYEWEAR THAT PERFORMS」広告

「ときめきと感動をお客さまへ」 全社員が考え、実践する和光に

グループの発祥の地である銀座に立つ和光本館は、ウォッチ、クロック、眼鏡などのセイコー製品を数多く取り扱っています。売上や利益による貢献もさることながら、和光は、世界を代表するランドマークからSEIKOブランドを発信する役割を担っています。

現在のお客さまはシニアの方々が中心ですが、将来を見据え、若い世代のお客さまにもアピールするよう商品を入れ替え、情報発信力を高めています。すでにメンズ向け商品では成果が表れています。

さらに次の戦略として、カタログやネットでの販売、外商に力を入れていきたいと考えています。「ときめきと感動をお客さまへ」をキャッチフレーズに、和光ならではの高品質の商品を一人でも多くのお客さまにお届けできるように、真心を込めたサービスの強化を図ってまいります。

そのためには、和光で働く全員がお客さま満足について考え、実践していかなければなりません。また、仕事の生産性を高めていくことも必要です。2013年に、若手社員たちの社内プロジェクトにより、社員自らが社員のあるべき姿をまとめた「和光人の心得」を作成しました。社員全員が毎日携帯して業務を振り返ることで、日々スキルを磨いています。こうした取り組みの積み重ねとともに、目的・目標の共有、公正な評価によってマネジメントが社員から信頼される組織づくりにも努めていきたいと考えています。

株式会社 和光
代表取締役社長

安達 辰彦



セイコーではたらく



セイコークロック株式会社
企画部企画グループ

神谷 佳孝

周りの言うことを鵜呑みにせず、自分が自信をもてるものにこだわって企画するスタイルなので、普段から嗅覚を磨くよう心がけています。商談会でお客さまの目線や動きを観察したり、休日には、子どもの好きなことを一緒にやることで、自分の知らなかった新しい世界が広がっていきます。人をワクワクさせるのが好きで、私の考えた仕掛けをお客さまが楽しんでいるのを見るとやりがいを感じます。成熟市場と言われるクロックですが、たとえば壁掛けの発想を変えるなど、生活に密着した一歩先の新たな提案で、日々クロックを進化させたいと考えています。

社名・部署名は2015年9月現在